

汚染水漏れ、ボルト緩み

高浜4号機 26日にも再稼働維持

関西電力は22日、高浜原発4号機（福井県高浜町、出力87万キロワット）の原子炉補助建屋で起きた汚染水漏れは、配管の弁のボルトが緩んでいたことが原因と発表された。同様の弁を点検

し、同日夜、「起動試験」を始めた。起動試験は水漏れで予定より1日遅れたが、再稼働は当初の想定通り26日にも始める方針だ。▼34面「きっちり点検を」汚染水漏れは20日、原子

炉につながっている1次冷却水の配管に水を通す試験で、原子炉補助建屋にある浄化設備の近くで見つかった。放射性物質を含む水が約34リットル漏れていた。

関西電力が調べた結果、浄化設備につながる配管に弁を取りつけている4本のボルトのうち、1本が緩んでいた。試験では原子炉を動かしているときよりも高い水圧をかけていたことも、水漏れにつながったとみている。ボルトの締めつけは工具

を使った手作業で、規定通り作業したとの記録も残っていたが、狭い場所での作業のため、きちんと締めつけていなかった可能性があるとみられる。

高浜4号機には同じような弁が約80あり、22日にすべて点検して起動試験を始めた。8日間の試験中に、原子炉の核分裂を抑える制御棒の働きを確かめた後、26日にも制御棒を引き抜いて再稼働させる。1月29日に再稼働した高浜3号機についても同様の弁を点検した。3号機は今日26日にも営業運転に入る。

関西電力は20日に汚染水漏れを発見してから約1時間後に原子力規制委員会と福井県に連絡したが、公表は約6時間後だった。

関西電力高浜原発4号機の水漏れ

関西電力の資料をもとに作製

